# 瀧谷山報

通巻171号
［令和3年9月発行］

## 【今後の当山行事予定】

### 秋季大祭 9月28日

●御本尊御開扉大護摩供（本堂）
〈午前〉6時・10時・11時30分　〈午後〉1時30分・3時

●大般若経転読付大護摩供法要（本堂）
午前11時30分

●柴燈大護摩供　午後1時 開始

### 七五三詣り 10月1日～11月末（10月25日と11月25日を除く）

●七五三祈祷会（本堂）
- 平　　日…〈午前〉7時・10時・11時30分
- 土・日・祝…〈午前〉10時・11時30分
  〈午後〉1時30分・3時

### 納め不動 12月28日

●御本尊御開扉大護摩供（本堂）
〈午前〉6時・10時・11時30分
〈午後〉1時30分・3時

※行事予定は9月1日時点での予定です。今後、新型コロナウイルスの感染拡大等により変更する場合があります。
詳しくは瀧谷山公式ホームページなどで随時ご案内いたしますので、ご確認ください。

### ■日々のお護摩祈祷

- 平　　日…〈午前〉7時・10時・11時30分
- 土・日・祝…〈午前〉7時・10時・11時30分
  〈午後〉1時30分・3時
- 毎月28日…〈午前〉6時・10時・11時30分
  〈午後〉1時30分・3時

### ■交通安全祈願

午前9時より午後4時までの毎時0分・30分（30分毎）
（毎月28日および1月31日～2月4日はお車の安全祈願はございません）

### ■仏具磨きの日のお知らせ

●9月25日　●10月25日　●11月25日　●12月25日
この日は仏具磨きの日ですので、朝7時のお勤めだけです。

令和3年9月発行
通巻171号

●発行所：瀧谷不動明王寺
〒584-0058　富田林市彼方（オチカタ）1762　電話 0721-34-0028　振替 00930-5-17704
●発行人：荒谷純光　●編集人：荒谷純栄

# 思惟ということ

寺の一日は朝の勤行から始まる。定められた次第を休むことなく毎朝坦々と勤めるが、日々読誦する経典の中に「思惟（しいしゆい）」という言葉が多出する。

『広辞苑』では「思惟」を次のように説明している（第四版）。

①心を深く考え思うこと。

②考えめぐらすこと、心を集中させること。

特に②の解釈では、これは仏教用語であり、「しゆい」と発音すると注記している。「思惟」という仏教由来の言葉や概念が一般にも使われる用例である。

では思惟とは、一体何を考え、何に心を集中させるのかが問題となるが、その解はそう容易なものではない。

京都太秦に在る広隆寺や奈良斑鳩の中宮寺には「半跏思惟像（はんかしゆいぞう）」と称される御仏が奉安されている。どちらも国宝に指定される高名な仏様である。片脚を組み、右手を頬に添えたお姿で、しかも表情にはやわらかな微笑みが湛えられている。よって古来より無数の人々はその微笑みに魅了されてきた。御仏が何を思惟されているのか、凡人たちは様々な思いを重ねて拝してきたはずである。その推し量ろうとする営みにこそ、日頃は浅薄な考えしか浮かばない凡人が深く考えをめぐらせる好機にもなる。

話題を転ずる。「人間は考える葦（あし）である」という言葉を残したのはフランスの哲学者にして数学者のパスカルという人。この短いフレーズは二つの観点を持つという。一つは人間というものは頼りなげな葦のように弱い存在であること、もう一つは人間とは深く考える能力を有する存在ということである。特に後者の視点は仏教の思惟との共通項も感じさせる。パスカルもまた思惟することの重要さに気付いた一人である。思惟する、深く考えることは意思のはたらきであるが、近年この深く考える意思が人間の肉体をも進化させていることが研究で証明されつつある。思惟することは並々ならぬ力を備えているらしい。

この一年以上、地球に暮らす私たちは新たな感染症の猛威にさらされている。産業革命以来さまざまな科学技術の進捗とその恩恵に浴してきた私たちは、科学文明の力で多くのものごとを達成し、時には自然力をも凌駕できると過信した。だがその半ば自信に思えた驕りも目に見えないウイルスの前に、あっけなく崩れ去った。右往左往している私たちが今ここにいるではなかろうか。

国宝「菩薩半跏像」（中宮寺）

科学文明は本来人々の幸福に寄与するはずだが、あらゆる不安感を払拭はできない。実は人類誕生以来、私たちが置かれている環境は二千五百年前のお釈迦様や一千二百年前の弘法大師の頃と何一つ変わらないのかもしれない。それは「諸行無常」という大法則のもとに生滅を繰り返しているに過ぎないという事実である。この大法則が意味する大事を私たちの先人は常に尊重してきたものの、科学文明専行の数世紀の間に少々これを疎かにしてきた傾向が見受けられる。

パスカルも追及したのは、より本源的な幸福を求める思惟力のこと、より善く生きようと考えることであった。これは仏教が説く智慧や禅の修行にも通じるものである。

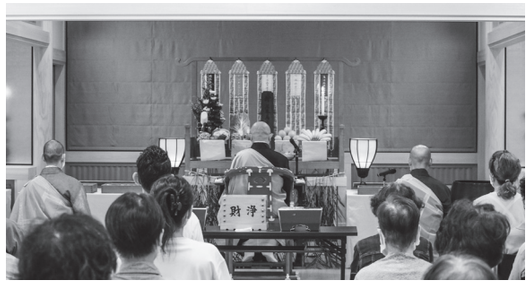
パスカルは人間を弱きものとして葦に喩えたが、仏教はそうした喩えをしない。同じ植物にたとえるならば仏教は必ず蓮華を択ぶ。私たちの本質は常に清浄（しようじようじよう）なのだと徹底して力説するのが御仏の教えである。泥中にありながらも染まらずに咲く蓮の如く、私たち衆生も諸行無常の世界で必ず大輪の花を咲かし得ると説く所以である。

そう思うと半跏思惟のお姿に深遠なる趣きを感得する。観音様もお不動様も深く思惟されておいでである、その慈悲の極みとしてあの微笑みやあの厳しきお姿がある。それを思えば私たちも如何にあるべきか、解は自ずと明白になろうものか。

瀧谷山の開創一千二百年の慶事も無魔円成し、話題を集めた東京オリンピック・パラリンピックも幕を閉じた。秋のお彼岸や深まり行く季節と共に思惟できる暮らしをぜひとも送りたいと念ずる今である。

（画像は中宮寺様より許可を頂き掲載いたしました）

## ◆観世音夏まつり　ご報告



七月十一日、年に一回の廻向法要として「観世音夏まつり」が勤められました。

今年より、客殿講堂が会場となり、快適にお参りいただけるようになりました。当日は、皆様からご廻向のお申し込みをいただいたお戒名を、一体一体経木に書き写してお供え。午後一時からの法要では、経木が一体ずつ読み上げられていく中、お参りの皆様にご焼香いただき、ご先祖様のお徳を偲んでいただきました。法要後、廻向をお申し込みの皆様には福引を楽しんでいただきました。

## ◆地蔵盆　ご報告

八月二十四日、地蔵盆のお勤めが行われました。

お勤め前には、お地蔵様の頭巾と前掛けが衣替えされ、新しい装いとなられたお地蔵様を前に、ご信徒皆様のお子様の健やかな成長を祈念しました。お供えをいただいた家庭のお子様には、お下がりのお菓子をお配りしました。

また、近隣の瀧谷・大野台地区の地蔵盆には、当山から僧侶が出仕。各地区のお子様のご健勝を祈ってお勤めいたしました。

# 秋季大祭 9月28日

## 大般若経転読付大護摩供 柴灯大護摩供 厳修

来たる九月二十八日、秋季大祭として大般若経転読付大護摩供ならびに柴灯大護摩供が厳修されます。

本堂では午前十一時半の大護摩供に際し、大般若転読法要が勤められます。『大般若経』六百巻を作法に則って転読し、世界平和・国土安穏・五穀豊穣等を祈念し、併せてご参詣皆様のお願い事をご祈念いたします。

また午後一時頃より、境内にて瀧峰大護摩講所属の修験者によって柴灯大護摩供が勤められます。柴燈大護摩供では、皆様にお願い事を書いていただいた添え護摩木を火中に投じ、所願成就を祈念いたします。添え護摩木の申込は、当日朝より受付しております。

●午前6時
御本尊御開帳大護摩供
●午前11時30分
大般若経転読付大護摩供
●午後1時頃
柴燈大護摩供 開始

◎柴燈大護摩供添え護摩木
1本 300円

※予定は9月1日時点でのものです。今後、新型コロナウイルスの感染拡大等により変更する場合があります。
詳しくは公式ホームページをご確認ください。



# 七五三詣り ご案内

## 10月1日～11月末

瀧谷山では、十月一日より十一月末まで、七五三のご祈祷をお勤めしております。

子供の健やかな成長を祝い、無事を願う七五三は、公家や武家で行われた男女三歳の「髪置（かみおき）」、男児五歳の「袴着（はかまぎ）」、女児七歳の「帯解（おびとき）」などの儀礼に由来し、江戸時代ごろより七五三として一般的に広まっていったようであります。

七五三のご祈祷をお受けのお子様には、絵馬と縁起物の千歳飴のお下がりをお渡ししております。また、期間中は、撮影所を用意しております。

皆様方のお子様、お孫様の七五三をお祝いされ、お不動様のご加護をいただかれますよう、ご案内申し上げます。

●祈祷時刻（お護摩祈祷と併修）
平日……〈午前〉10時・11時30分
土・日・祝…〈午前〉10時・11時30分
〈午後〉1時30分・3時

●祈祷料　5000円より

●お下がり
お札・身代守・絵馬・千歳飴・おもちゃ

## 身代わりどじょう

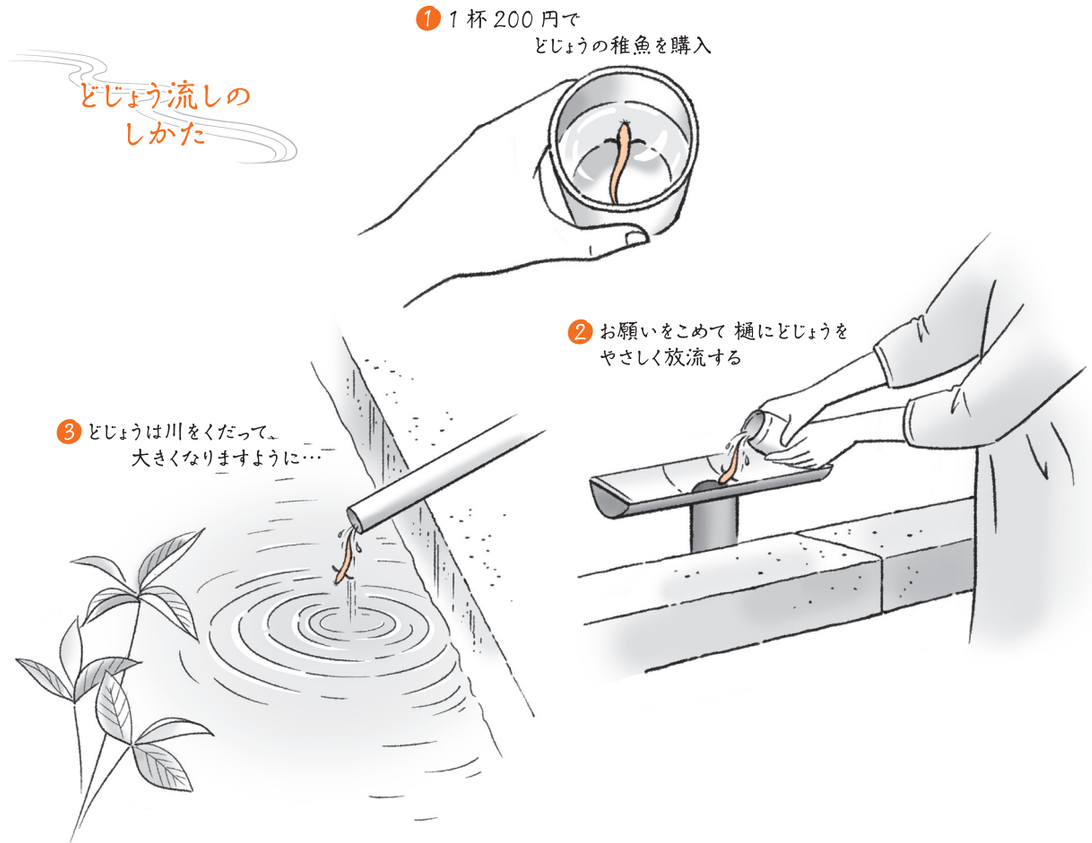
瀧谷山には昔から、「身代わりどじょう」という少し変わった信仰が伝えられています。当山のお不動様は古来より、特に眼病に御霊験あらたかな事が伝えられ、多くの人々が参詣に訪れる霊像でした。そしてお不動様に目を助けてもらおうとお願いする際には、どじょうを持って参り、それを瀧谷の川に放してお不動様にお願いすれば、このどじょうの目が自分の目に代わって身代わりとなり、自分の目を助けてもらえると伝えられています。

この信仰は今も生きていて、滝行場にはお参りの方のためにどじょうが用意されており、ご縁日の二十八日などには、これを川に放ち、祈願を込めて行かれる人も大勢おられます。近年では、眼病平癒に限らず色々なお願いでも、どじょうを放つ方が多いようです。

仏教では、「放生（ほうじょう）」という言葉があり、功徳を積むために生きものを放ちやることを意味します。放生は、日本に仏教が伝わった飛鳥時代のころから行われたようで、当山の身代わりどじょうは、古代の信仰のあり方が今に伝わったものと言えるかもしれません。

言い伝えでは、この川に放たれたどじょうはみんな片目であって、片目は失明して白くなっている。それは、お不動様がどじょうの姿となって、自らの片目を捨てて身代わりになってくれるから、放たれたどじょうはみんな片目になっているのだと言われます。

昭和十年ごろ、当山へ立ち寄られたお坊さんがこの事を調べてみたところ、本当にその通りであったので、一同大変感心されたそうです。その時、お不動様はどなたの目を助けられたのか、まことに不思議なご縁という他はありません。






## 木魚のおはなし

お寺といえば先ず、和尚さんの読経に「ポク　ポク　……」というあの木魚（もくぎょ）の音を連想される方が多いのではないでしょうか。

ある法事での出来事ですが、お勤めが終わった後、小さなお子さんが母親に「ねー！　どうしてこれを、木魚と云うの？」困った母親は懇願するような顔つきで、私に救いの目を向けられました。

この場でこの小さな子供の質問には、僧侶の私が答えるのが当然であろうと、即座に次のようなお話をいたしました。

「それはねー　お魚が大きくお腹を膨らまして、顔と尾を付けている形を、木で彫ってあるので、木魚と云うんだよ。」その場に居合わせた方々は皆、大きくうなずいておられました。

しかしそのお子さんはどうも納得していないような顔つきでしたが、そのときはあまり気に止めることなく、私は次の話へと進めました。

後になって、その木魚をよくよく観察しましたところ、私の眼にも、魚の様で魚でない形をしているではありませんか。

今日見られるその文様は、胴の表面に魚鱗を彫刻してあるのは変わりありませんが、一心二頭の龍の頭の形や、竜の双頭に玉を抱かせた形に変遷しております。

木魚の質問をしてくれた子供にはどうも説明不足であったようで、今でも恥ずかしく思っております。

木魚は桑や楠などの木が用いられております。その胴の部分の中をくりぬき、横に穴を開けてあります。これを棒の先を皮でくるんだ「撥（ばい）（梓とも）」と呼ばれている物で叩くと、あのような良い音が出るわけです。

その大きさは、大きいところでは永平寺の法堂（はっとう）にある木魚は、立って撥を両手でかかえてうたなければならないほど大きなものから、掌に入ってしまう小さなものまで、様々ではありますが、それなりの良い響きを出してくれます。

「叩かれて　昼の蚊を吐く　木魚かな」

夏の昼下がり、静かな本堂の片隅においてある木魚に蚊が一匹、昼寝ときめこんでのうたた寝、夕方のお勤めの読経で木魚を叩かれ、大慌ての蚊がビックリ飛び出した。これは夏目漱石の句ですが、なんともほほえましい一句です。

この木魚はお経などをお唱えするとき、調子をとるために用いられるものです。

ただこの形状に魚の形を取ったのは、いろいろの故事がありますがその一つに、魚は昼夜とも目を開けていることから、わたしたちの怠惰・惰眠を戒めるため、これを打ち鳴らし、人々の目を醒すのだといいます。

お寺でお経を唱えながら、「ポク　ポク」と打ち鳴らす木魚の音には「迷いの世界からどうぞ目を覚ましましょう。」という願いが込められております。

（『瀧谷山報』第58号より再掲しました）

## 本堂御宝前ロウソク 献灯のおすすめ

瀧谷山では、御信徒の皆様にお供えいただいたロウソクを、お不動様の御宝前に灯明として毎日欠かさずお供えしています。

灯明は、古来仏様への最も大切なお供えの一つとされ、さまざまなご利益が説かれています。また「教えを灯明とし、教えをよりどころとせよ」とのことばにあるように、灯明の火は仏様の智慧の象徴であり、私たちの心を照らし、闇を払って真実のあり方を見せると言われています。

ロウソクには、お名前とお願い事をお書きいただき、お不動様の御宝前にお供えして祈願いたします。お不動様とさらなるご縁を結び、大きなご利益をいただかれますよう、ロウソクの献灯をおすすめいたします。

●ロウソク大…2000円
　小……500円

●受付　当山御膳場

## お初穂米 お供えのご案内【9月～12月末】

今年もお初穂米のお供えをご案内する時候となりました。

初穂（はつほ）とは、今年の実りに感謝し、来年の豊穣を祈念して神仏に捧げるお供えのことで、当山ではお米（初穂米）またはお金（初穂料）にてお供えいただいております。

ご奉納いただいたお初穂米は、来年節分過ぎまでお不動様の御宝前にお供えし、来年の豊作を祈念いたします。その後は毎日のお護摩祈祷でお不動様にお供えし、ご信徒各家の家門繁栄、子孫長久を重ねてお祈りいたします。

この山報と同封のビニール袋にお初穂米（料）を入れてお供えいただき、お不動様とご縁を深められますよう、ご案内申し上げます。

●受付　当山事務所



## お寺のごはん 5 芋粥

始終お参りになられる方でもご存じのない方もおられるかも知れませんが、本堂の西側に坪庭をはさんで土蔵つくりのお堂があります。霊拝堂といいます。

このお堂には歴代住職のお位牌のほか、先の山報でお話しした講社各家や篤信各家のお位牌や過去帳をお預かりしています。

毎朝本堂での勤行のあと、このお堂でご回向がつとめられます。また春秋のお彼岸やお盆には必ずお膳をお供えいたします。

とくにお盆の三ヶ日は献立が決まっていて、永年その通りにお供えしています。

この度はその中の14日朝のお供えの芋粥のお話です。

**材　料**

●はま芋
（砂地でとれる細いさつま芋、お盆のころ出まわります。昔は住吉の浜でも採れたように聞いています。）
はま芋のないときはさつま芋を適当な大きさに切って使います。

**作り方**

●はま芋は一～二センチの輪切りにして、一度お水にくぐらせてでんぷんを取ります。
●お水からお芋を入れて火にかけます。
●湧き上がってきたら、洗い米をいれて煮ます。
お米はお水がわきあがってから入れる方が、お粥がさらっと炊きあがります。
●お芋とお米がやわらかくなったら出来上がりです。
お芋もお米も潰れない方がよろしいです。

白いさらりとしたお粥のなかに、黄色いお芋の色が美しく映えて食欲をそそります。
また夏の時期、冷やしがちなお腹にもやさしい一品です。

## 開創一千二百年記念事業　寄進者御芳名（敬称略・順不同）

大阪市
柏原市
富田林市
松原市
大阪市
羽曳野市
南河内郡
富田林市
長野県
長野県
長野県
長野県
東大阪市
岸和田市
和歌山県
堺市
松原市
藤井寺市
堺市
堺市
大阪市
福岡県
松原市
高石市
堺市
河内長野市
京都府
河内長野市
河内長野市
富田林市
八尾市

富田林市
大阪市
南河内郡
河内長野市
羽曳野市
堺市
大阪市
大阪市
和歌山県
和歌山県
堺市
堺市
堺市
富田林市
堺市
藤井寺市
守口市
堺市
河内長野市
大阪市
大阪市
大阪市
河内長野市
兵庫県
堺市
柏原市
大阪市
羽曳野市
羽曳野市

京都市
堺市
堺市
堺市
奈良県
堺市
河内長野市
堺市
和泉市
和泉市
大阪狭山市
和泉市
羽曳野市
大阪市
大阪市
泉南郡
大阪市
堺市
東大阪市
富田林市
富田林市
南河内郡
富田林市
富田林市
高石市
高石市
大阪市
富田林市
千葉県

千葉県
岩手県
京都府
富田林市
堺市
堺市
八尾市
河内長野市
河内長野市
奈良県
羽曳野市
八尾市
大阪市
泉大津市
河内長野市
大阪市
堺市
大阪市
大阪市

開創一千二百年記念事業へのご奉讃の受付は、令和三年五月末日をもちまして締切らせていただきました。沢山のご奉讃、誠にありがとうございました。



## 鐘楼堂修復事業　寄進者御芳名（敬称略・順不同）

●40口
富田林市

●10口
奈良県

●2口
河内長野市
南河内郡
南河内郡
泉佐野市
堺市
富田林市
南河内郡
八尾市
堺市
富田林市
大阪市
大阪市
大阪市

●1口
奈良県
河内長野市
広島県
富田林市
富田林市
兵庫県
大阪市
兵庫県

羽曳野市
大阪狭山市
羽曳野市
羽曳野市
羽曳野市
河内長野市
松原市
松原市
富田林市
松原市
堺市
奈良県
岸和田市
藤井寺市
泉南市
羽曳野市
羽曳野市
大阪市
堺市
堺市
堺市
堺市
堺市
富田林市
愛知県
愛知県
愛知県

藤井寺市
藤井寺市
藤井寺市
藤井寺市
藤井寺市
富田林市
兵庫県
福岡県
八尾市
八尾市
埼玉県
埼玉県
八尾市
河内長野市
松原市
大阪市

### ～編集後記～

今年のお盆は梅雨に逆戻りしたかと思うほど雨が続きました。入寺以来ここまでお盆が涼しかったことは記憶にありません。一方で、新型コロナウイルスの流行はこれまでにないほど拡大しています。ワクチン接種が進んできたとはいえ、収束がいつになるのか、また何をもって収束となるのか、まだまだ見通せません。

瀧谷山報の誌面が新しくなりました。今年は、先の特別号があったことで、編集のリズムが例年と異なり苦労しましたが、今号もなんとか発行にこぎつけました。新しくなった瀧谷山報を、これからもよろしくお願いいたします。